

令和7年5月26日

市政記者 各位

環境省同時発表

## チュニジア共和国に「福岡方式」を初導入！ ～福岡発のごみ埋立技術を活用する初めてのJCMプロジェクト～

福岡市と福岡大学が共同開発した環境にやさしいごみ埋立技術「福岡方式（準好気性埋立構造）」は現在、世界 21 개국で導入されており、埋立場の改善を通じて、都市の廃棄物問題解決と脱炭素の推進に貢献しています。

このたび、「福岡方式」を適用する初めての JCM（\*注）プロジェクトが成立し、チュニジア国へ「福岡方式」が導入される運びとなりました。これを受け、チュニジア国から研修生が来福し、市内で行われる「福岡方式」の研修（実習）に参加します。

つきましては、関係者の皆様への周知及び当日の取材へのご協力をお願いします。

\*注：JCM（二国間クレジット制度）…日本と途上国等で協力して、途上国等における温室効果ガスの削減等に取り組み、削減の成果である排出削減量をクレジットとして両国で分け合う制度。

### プロジェクト概要

- ・チュニジア廃棄物管理公社（ANGED）と日本企業（㈱エックス都市研究所）が共同で実施。
- ・首都チュニス近郊、ベジャ埋立場内の約 3,400 m<sup>2</sup>に福岡方式を導入し、メタンガス排出削減を目指す。
- ・プロジェクト資金は、環境省から国連工業開発機関（UNIDO）への拠出金を活用。

UNIDO 発表資料（英語）URL: <https://www.unido.org/news/unido-JCM-carbon-crediting>

### 研修（実習）

#### （1）研修参加者（予定）

チュニジア廃棄物管理公社（ANGED）5名

#### （2）研修実施・協力機関（※JICA 課題別研修と合同実施）

（公財）ふくおか環境財団、廃棄物管理アドバイザーネットワーク福岡（NPO 法人 SWAN 福岡）、国連人間居住計画（UN-Habitat）、大成管理開発（株）、（独法）国際協力機構（JICA）、福岡市環境局

#### （3）研修日程

日時：5月26日（月）～30日（金） 9：30～16：30

場所：福岡市内（西部埋立場ほか）

※取材可能な日程につきましては次頁をご覧ください。研修生への取材も可能です（通訳あり）。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



【このリリースに関するお問い合わせ先】

福岡市環境局 環境政策課 担当：野口 電話：092-733-5383（内線 2410）

【研修（実習）の内容及び研修への取材に関するお問い合わせ先】

（公財）ふくおか環境財団 環境啓発課 担当：梅木 電話：092-731-2704

【福岡方式に関するお問い合わせ先】

福岡市環境局 施設課 担当：木元 電話：092-711-4311（内線 2390）

## 研修への取材について

### (1) 取材対象日程・研修内容 (予定)

5月26日 (月)

13:30～16:30 廃棄物の投下～覆土、築堤の造成、搬入道路整備実習等

5月27日 (火)

9:30～12:30 ガス抜き管等の作成実習 (竹・ドラム缶の加工)

13:30～15:45 簡易集排水管等の作成・設置実習

### (2) 実施場所

西部 (中田) 埋立場 (福岡市西区今津 4439)

### (3) 取材時の留意事項

- ① 取材に際しては、現地担当職員の指示に従い、指定された範囲内をお願いします。
- ② 取材中は、腕章など、社名が分かるものを着用してください。
- ③ 27日 (火) の取材に関しては、可能な限り、事前に (公財) ふくおか環境財団へ連絡してください。【環境啓発課 Tel 092-731-2704】
- ④ 取材の際は、西部埋立場の駐車場をご利用ください。

参考：過去の実習風景

(ガス抜き・集排水管等の設置実習)



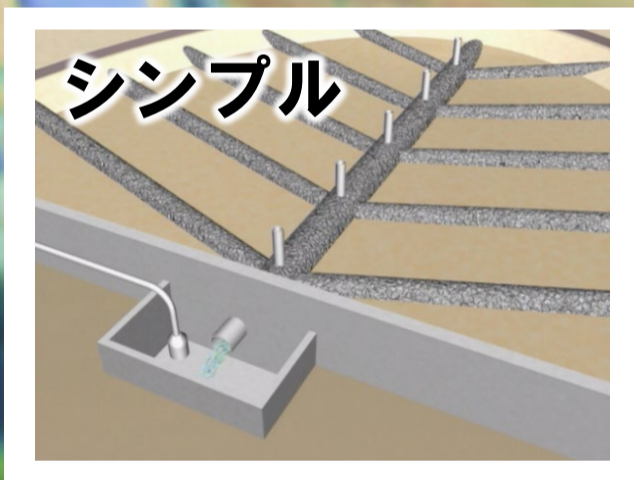
研修実施場所地図



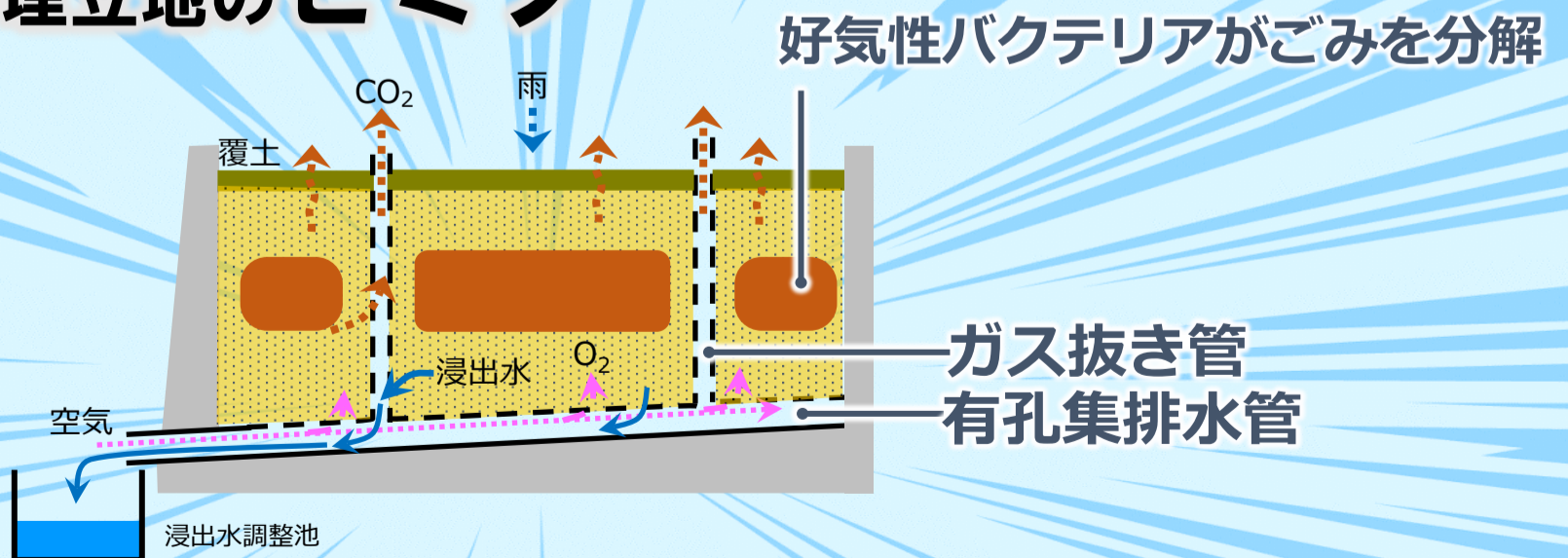
# 世界21か国で導入!

## 市民が暮らしやすい生活のまちづくり技術

# ごみの埋立技術 福岡方式



## 環境にやさしい埋立地のヒミツ



# CO<sub>2</sub>換算 約20~50%の削減効果

※酸素が足りている状態では、ごみはメタンガス(CH<sub>4</sub>)ではなく二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)に分解されます。

国際協力について

- 福岡市は福岡大学と共同でアジア太平洋地域を中心に、1998年(平成10年)から研修生の受け入れや海外へ技術者を派遣し、埋立場の改善など国際環境技術協力を行っています。

世界21ヶ国で導入



海外での既存埋立場改善の状況



公衆衛生の観点からの埋立地改善効果

- 廃棄物の飛散・流出の防止
- 病害虫の発生・悪臭の発生防止
- 浸出水漏洩の防止
- 有毒ガスの発生防止
- 火災の発生防止

埋立地改善による温室効果ガス削減量

嫌気性埋立構造と比べて

CO<sub>2</sub>換算で 約20~50% 削減

注記)埋立地規模や維持管理などの違いにより削減量は異なります

- 2011年、気候変動枠組条約で規定するクリーン開発メカニズム(CDM)の新たな手法として認定
- IPCCガイドラインにその効果が記載

※福岡方式による国際環境技術協力の詳細は右の二次元コードからご確認下さい

※本市埋立場の施設見学、福岡方式についてのお問い合わせ先

環境局施設部施設課 福岡市中央区天神1-8-1 TEL092-711-4312

メールアドレス: [shisetsu.EB@city.fukuoka.lg.jp](mailto:shisetsu.EB@city.fukuoka.lg.jp)





# 環境省報道発表

令和7年5月26日（月）

国際連合工業開発機関（UNIDO）による二国間クレジット制度（JCM）を活用した「チュニジア共和国ベジャにおける廃棄物管理のための福岡方式（準好気性埋立）プロジェクト実施」の採択について

<福岡市同時発表>

1. 環境省からの拠出金により、国際連合工業開発機関（UNIDO: United Nations Industrial Development Organization）は、2022年度からアフリカにおける二国間クレジット制度（JCM: Joint Crediting Mechanism）のパートナー国において優れた脱炭素技術等を活用して温室効果ガスを削減し、日本の貢献に応じてJCMクレジットの獲得を目指すJCMプロジェクトの早期形成支援を行っています。
2. このたび、JCMを活用した案件として、「チュニジア共和国ベジャにおける廃棄物管理のための福岡方式（準好気性埋立）プロジェクト実施」がUNIDOにより採択されましたのでお知らせします。本プロジェクトは、福岡方式を用いた初のJCMプロジェクトとなります。

【添付資料】 案件概要

<詳細は次ページ以降>

内容についての問合せ先  
環境省地球環境局  
国際脱炭素移行推進・環境インフラ担当参事官室  
代 表： 03-3581-3351  
直 通： 03-5521-8248  
参 事 官： 行木 美弥  
推 進 官： 須賀 義徳  
参事官補佐： 工藤 俊祐  
担 当： 三保 紗織

## ■ 経緯

環境省と国際連合工業開発機関（UNIDO）は、2020年に様々なステークホルダーと連携しつつ、持続可能な開発目標（SDGs）の達成という共通の目標に向け、両機関の緊密な協力を促進することを目的とした共同宣言に署名しました。これを踏まえ、UNIDOは、2022年度から、日本国環境省からの拠出金により、アフリカの二国間クレジット制度（JCM: Joint Crediting Mechanism）パートナー国において優れた脱炭素技術等を活用して温室効果ガスを削減するとともに、日本の貢献に応じてJCMクレジットの獲得を目指すJCMプロジェクトの日本企業による早期形成支援を行っています。

このたび、JCMを活用した案件として、「チュニジア共和国ベジャにおける廃棄物管理のための福岡方式（準好気性埋立）プロジェクト実施」がUNIDOに採択されました。本プロジェクトは福岡方式（準好気性埋立）を用いた初のJCMプロジェクトとなります。

## ■ 採択した案件の概要

(1) プロジェクト名	チュニジア共和国ベジャにおける廃棄物管理のための福岡方式（準好気性埋立）プロジェクト実施
(2) プロジェクト実施国	チュニジア共和国
(3) 導入技術概要	廃棄物埋立処分場における福岡方式（準好気性埋立）の導入
(4) 想定される排出削減量	約 512 tCO <sub>2</sub> /年（平均）

### 【参考1】二国間クレジット制度（Joint Crediting Mechanism: JCM）

途上国への温室効果ガス削減技術、製品、システム、サービス、インフラ等の普及や対策を通じ、実現した温室効果ガス排出削減・吸収への日本の貢献を定量的に評価し、日本の削減目標の達成に活用するものです。

### 【参考2】福岡方式（準好気性埋立）

「福岡方式」として知られる埋立て技術「準好気性埋立構造」は、1970年代に福岡市と福岡大学が共同で開発し、実用化されました。埋立地の底部に浸出水集排水管を敷設して外気を取り込むことにより、悪臭や温暖化効果の高いメタンガスの発生を抑え、埋立地の早期安定化を可能とする環境負荷の低い廃棄物処分場の工法です。

## ■ 関連情報

- ・ 下記 UNIDO ホームページもご参照ください。

<https://www.unido.org/news/unido-JCM-carbon-crediting>

以 上

# チュニジア共和国ベジャにおける廃棄物管理のための福岡方式（準好気性埋立）プロジェクト実施

- 「福岡方式」は、日本発の準好気性埋立処分技術。**埋立処理場からのメタンガスの発生を抑制し、火災防止、排水の水質改善、悪臭低減、早期安定化を実現する技術**として多くの実績有り。
- チュニジアにおいては、増加する廃棄物により、**衛生管理が不十分な処分場**が存在。温室効果の高いメタンの排出とともに、水質汚染や火災の発生、処分場の崩落などのリスクが課題。
- 首都チュニス近郊のベジャ処分場について、環境省拠出によるUNIDOのJCMプロジェクト早期形成支援を活用し、**JCMでは初となる福岡方式を用いたメタン削減プロジェクトを実施することに日・チュニジア両政府が合意。**
- 2025年末に完工予定。その後、同国内及びJCMパートナー国への横展開を目指す。

## プロジェクトの概要

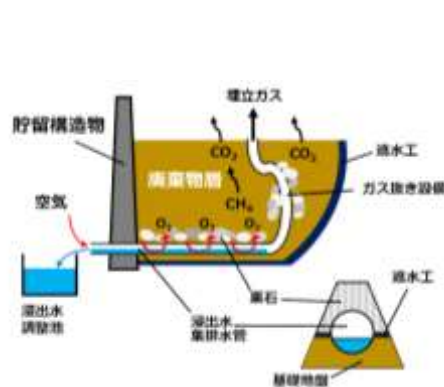
- チュニジアの廃棄物公社（ANGED）とエックス都市研究所が共同で実施。ベジャ処分場の増設計画に合わせて、区画の3分の1程度に福岡方式を導入する。



プロジェクトサイトの空撮と計画図

## 福岡方式

処理場内に空気が自然と供給される構造を作ることにより**埋立層内に空気の流れ**をつくり、嫌気性ではなく好気性を保ちながら廃棄物の分解を促進する埋立方式。



福岡方式の構造



福岡方式の導入事例  
(上：施工前、下：施工後)